

バルク貨物

バルク貨物とは

バルク貨物とは、船舶に「ばら（梱包されない）」の状態に積載されるばら積み貨物のことで、日本の海上荷動量（トン）のうち、バルク貨物が80%（自動車・大型機械等を含む）を占めています。

また、産業や国民生活に欠かせない資源、エネルギー、食糧等をはじめとするバルク貨物のほとんどは海外からの輸入に依存しています。これら資源・エネルギー等の安定的かつ安価な輸入の実現に向け、国土交通省では国際バルク戦略港湾政策に取り組んでいます。

品目	国内生産量	輸入量	輸入比率
トウモロコシ	0	1,566	100.0%
石炭	133	18,512	99.3%
鉄鉱石	0	12,682	100.0%

主要バルク貨物の輸入比率（単位：万トン、2017年度値）
出典：農林水産省「食料需給表」、経済産業省「エネルギー白書」、財務省「貿易統計」より作成

トウモロコシの基礎知識

トウモロコシは粒の性状や特徴に応じて、デントコーン、フリントコーン、ポップコーン、スイートコーン等に分類されます。デントコーンは一番消費量が多い品種で家畜用の飼料やコーンスターチとして利用されます。フリントコーンはメキシコのトルティージャ等の食用として利用されます。ポップコーンはスナック菓子として幅広い人気があり、スイートコーンは茹でトウモロコシ等の食用としてなじみ深い品種です。

2016年度の世界のトウモロコシの用途は、飼料用として62%（6.5億トン）、食用その他として24%（2.5億トン）、近年、需要が急増しているバイオエタノール用として14%（1.5億トン）が利用されています。

世界のトウモロコシの生産シェア（2015-17年度平均）は、米国36.4%、中国26.0%、ブラジル8.2%と、上位3カ国で70%のシェアを占めています。2018年度の日本のトウモロコシ輸入量1,576万トンのうち、米国からの輸入が95%（1,501万トン）のシェアを占めています。

石炭の基礎知識

日本では、日本産業規格（JISM-1002）により、炭素含有率の高い順に無煙炭、瀝青炭、亜瀝青炭、褐炭に石炭を分類する方法があり、炭素量の多い無煙炭ほど発熱量が大きい石炭です。また、石炭の用途から、大きく分けて原料炭と一般炭に分類され、原料炭は一般的に粘結性のある石炭で、主に製鉄（コークス）の

原料として、一般炭は主に発電用燃料として用いられています。

2016年の世界の石炭消費量を見用途別に見ると、発電用に65.2%、鉄鋼生産に用いるコークス製造用に12.4%、製紙・パルプや窯業を始めとする産業用に15.2%が消費されました。

世界に分布するエネルギー資源は、石油や天然ガスが中東を中心に偏在していますが、石炭は地質学的に比較的安定した地域を中心に世界に広く賦存している特徴があります。

2018年度の日本の石炭輸入量18,248万トンのうち、豪州からの輸入が62%（11,279万トン）、インドネシアからの輸入が16%（2,832万トン）のシェアを占めています。

	原油	天然ガス	石炭
中東	47.6%	40.9%	0.1%
米州	32.8%	9.8%	26.4%
欧州・ロシア他	9.3%	32.1%	31.3%
アフリカ	7.5%	7.1%	1.3%
アジア大洋州	2.8%	10.0%	41.0%
確認埋蔵量	1.7兆バレル	193.5兆m ³	1.0兆トン
可採年数	50.2年	52.6年	134年

世界のエネルギー資源の可採埋蔵量（2017年末時点）
出典：経済産業省「エネルギー白書」等より作成

鉄鉱石の基礎知識

鉄鉱石から生産される鉄は、金属の中で最も多く生産され、強度が高く、加工性に優れ、大量に生産され、安価であるといった特徴があります。このため、基礎資材の中心的存在であり、建築・土木、自動車・船舶、産業機械、容器などあらゆる分野で使用されています。普通鋼は一般建材、事務機などの生活日用品、自動車部品、電気製品等に使われています。また、特殊鋼は工具、構造材、バネ、軸受け等、特殊鋼の一種であるステンレスは耐候性、耐食性に優れ、建材、産業機械、医療器具、キッチン用品などに利用されています。

世界の鉄鉱石の埋蔵量シェアは、豪州29%、ロシア17%、ブラジル14%、中国9%、インド6%であり、この5カ国で75%を占めています。

2018年度の日本の鉄鉱石輸入量12,185万トンのうち、豪州からの輸入が58%（7,007万トン）、ブラジルからの輸入が28%（3,354万トン）のシェアを占めています。